

withコロナの子育てについて 私たちが願うこと

2020.6.28 保育園を考える親の会
おしゃべり会で寄せられたご意見から



保育園を考える親の会公式サイト
<http://hoikuoyanokai.com/>



保育園を考える親の会

2020年 春に起きたことを振り返り
その学びを生かした対応を
保護者と園・学校で共に考える場を
持ちませんか？



わたしたちの願い

#子ども全体

- 戸外で遊ぶ子どもを脅したり、保育園の散歩に苦情を言う「自粛警察」と呼ばれる大人の存在が複数の保護者から話題にあがりました。
子どもが利用できる施設（児童館・図書館など）は軒並み閉鎖となり、公園が唯一の遊びの場となる中、そこで思う存分遊ぶことすら許されなかった子ども達。
戸外での感染リスクが比較的小さいこと、子どもにとっての戸外遊びの必要性・重要性を理解し、子どもが地域で育つことを応援してほしいと願います。
社会としても、そのこと（正しい情報）を発信していただきたいです。

#未就学児（保育園）

- 保育はライフラインです。休園・登園自粛は暮らしを揺るがすものなので、慎重な判断をお願いします。
- 休園・登園自粛に踏み切る場合には、家庭に情報提供を十分にし、各家庭の状況もヒアリングしていただきたいと思います。
- 休園・登園自粛が長期化することが想定される場合には、クラスをグループ分けして週に数回登園できるようにするなど、子どもと園との関係がゼロにならないようにしていただけるとだいぶ違うと思います。

#就学児（学校）

- 子どもの学習ペースにいていねいに寄り添い、詰込み学習とならないためにはどうすればよいかを、保護者もともに考えたいです。
- 子どもたちが先生から学ぶ権利・学ぶ場を保障するために、さまざまな工夫が必要と思いますが、オンライン環境の構築は公立校でもベーシックに必要と考えます。
- 知識を与えるだけでなく、子どもと先生、子ども同士の交流も重要な教育の一部なので、オンラインを活用する際には、顔が見える双方向のやり取りができることも必要だと思います。
- 保護者の力を活用するために、ともに子どものことを考えるコミュニケーションの場を設けてください。

一斉休校・登園自粛で何が起きていたか！？

新型コロナウイルスは未知のものであり、現場での対応も経験が無く、手探りの連続であったこと、保護者もそれは重々承知しています。

だからこそ、その時に何が起き、家庭は何に困ったのか、辛かったのかを振り返り、今後の学びとして生かすことは出来ないか、と考えました。

迫りくる第二波・第三波の渦中の折には、先に起きたことからの学びを生かした対策を講じることが出来るよう、ここにまとめさせていただきます。

#未就学児（保育園）

- 預かって欲しいと感じても「**預けないで**」と言う圧力を感じた。
- 他の方が自粛している中、預けにくさを感じ、結果**転職や退職へ至った**ケースもあった。
- 休園となり、どこへ預けて良いか分からなかった。
- **仕事をしながら子どもを見ることには限界がある**ことを体感した。
- 保護者が仕事中、子どものYouTube依存度が増した。
- **運動不足**になった。
- 保育園のお散歩時に厳しい言葉を掛けられ、お散歩へ行きにくくなったと聞いた。
- 登園を再開した時の、子どもの「今日は●●したよ！」と嬉しそうに報告してくる顔・満足げな顔を見て、子どもには**保育園での経験が重要**であると実感した。
- コロナ対応時の判断の根拠となる**情報（エビデンス）不足**が、保護者間の温度差に繋がっていた。
- 「オンラインなどで園から子どもへのあたたかい発信（制作の指導など）があった」という園もあった反面、「何もなかった」「寄り添ってもらっている感じではなかった」と保護者が感じる園もあった。
- 休園期間中の緊急保育利用者は給食中止。通常は保育料が無料の世帯にとって昼食代の**負担が嵩む**状況も見られた。
- 自宅待機となった先生への給与が無い等の相談も寄せられた。（**公費は出ていたのに、保育士に届いてなかった**）

就学児① (学校)

- **公園で遊んでいたら叱られた** (ある区では保護者全員宛で「昼間外で子どもだけで遊ばせないように」と一斉メールが配信された)。
- **運動不足**になった。
- 子ども向け施設は軒並み閉鎖になってしまい、子ども達の居場所すら無くなった。(ある地域では高齢者向け施設は通常通り開かれていた。何故子ども達の間だけが制限されるのか理解できなかった。)
- **学校の放置からの丸投げ感**が凄まじかった (プリントの配布もなく、やっと始まったと思ったら採点されたものが戻ってくるでもなく、GW明けには大量の課題と共に時間割も配布され、こなすことで精一杯。勉強嫌いになったお子さんも居たのではないだろうか…)。
- 学校からは電話すらかかってこなかった。見放されているように感じた。
- 課題は子どもの下駄箱経由で受け渡しがなされ、教員とのコミュニケーションを取ることも出来なかった。
- 学校から動画配信がされていたが、セキュリティレベルが高く観られないものもあった。子ども自身で動画を観て理解した上でプリントの課題に取り組めないという問題も生じた。
- 学校は動画配信を頑張ったと自己評価。一方、保護者の動画への評価はそれほどではなく、そこに労力を割くのあれば別のところにエネルギーを掛けて欲しいとすら感じている = GAPがある。
- 保護者主催オンライン朝の会・クラス会が子ども達に好評だったことを学校に伝えたが無関心だった。

就学児② (学校)

- 教え方が分からず、**保護者は教師の代わりにはなれない**ことを痛感した。
- **オンライン授業等の取り組み**が進んだ学校がある一方で、全く進まない学校もあり、**格差**がどんどん開いていることに対して保護者が不安を感じている。
- オンライン授業は公平性の観点で全員が一律でスタート出来ないのであれば無理と教育委員会から返答があった。
- オンライン授業・オンラインホームルームは開催されていたが、保護者が就労で不在だったため子どもは一度も参加できなかった。
- 授業のIT化が進んだところでは、保護者がシステムトラブル等を学校ではなく塾講師に聞いていた。学校へ聞くことへのハードルが高い様子が見られた。
- 普段、通常登校が難しかったお子さんが、オンライン授業であれば参加できるなどのプラスの効果もあった。
- **行事がほぼ全て無くなった**。それは子どもの育ち、子どもの気持ちも検討した上での結果なのだろうか。
- クラス替えがあった学年は、**担任の顔が分からないまま6月を迎えた**。
- 小1年生は勉強の仕方なども分からないまま課題が与えられ、保護者から悲鳴があふれていた。
- 小1年生は学校再開と合わせ、様々**環境の変化**についていけない様子も見られる。心のケアも必要では？